

|   |
|---|
| <p>課題名 ①脳神経外科手術後患者の回復期リハビリテーション病棟における過去 10 年間の入退院症例の後方視的解析 (全体解析)</p>   |
| <p>(1) 新規に導入される医療<br/> (2) 保険診療の対象とならない医療<br/> (3) 患者に不利となる可能性のある医療<br/> (4) <u>その他</u></p>   |
| <p>研究責任者 宗本 滋</p>   |
| <p>概要</p> <p><b>2. 研究の背景および目的</b></p> <p>脳神経外科手術後患者における回復期リハビリテーションは、ADL 改善や社会復帰に大きな役割を担う。近年、血管内治療や血栓回収術など新しい手技の普及により、術後の回復プロセスが変化している可能性がある。</p> <p>本研究の目的は、当院回復期リハビリテーション病棟に入退院した脳神経外科手術後患者の 10 年間の臨床データを後方視的に解析し、手術後リハビリの有用性と臨床的特徴を明らかにすることである。</p> <p><b>3. 研究方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象：2015 年 4 月～2025 年 3 月までに回復期リハ病棟に入退院した脳神経外科手術後患者（脳卒中、脳腫瘍、頭部外傷を含む）</li> <li>データ収集：診療録より、年齢・性別、基礎疾患、手術の種類（開頭術、血管内治療、血栓回収術等）、入退棟時 FIM スコア、在棟日数、退棟先を抽出</li> </ul> |

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>研究デザイン：後方視的観察研究</li> <li>解析：FIM 改善度 (<math>\Delta</math>FIM)、FIM 効率、退棟先を主指標として検討し、患者背景や手術種類との関連を統計学的に解析する (t 検定、<math>\chi^2</math> 検定、多変量解析など)。</li> </ul> <p><b>4. 個人情報の取り扱い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>データは診療録から匿名化して抽出し、患者個人が特定される情報は削除する。</li> <li>データは院内のセキュアサーバーに保管し、研究関係者以外には提供しない。</li> </ul> <p><b>5. 倫理的配慮</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>後方視的研究であり、患者への新たな介入は行わない。</li> <li>診療に不利益を与えることはなく、院内規定に基づきオプトアウト方式で実施する。</li> </ul> <p><b>6. 研究実施場所および期間</b></p> <p>実施場所：金沢脳神経外科病院 回復期リハビリテーション病棟 3 病棟<br/> 実施期間：2025 年 9 月～2026 年 3 月</p> <p><b>7. 研究責任者</b></p> <p>氏名：宗本 滋<br/> 所属・役職：リハビリテーション科 脳神経外科<br/> 連絡先：(電話 2303/メール)</p> |
|--|